

心理

キャリア

新人♡
新採用
1年目

若手👉
主事級
2～10年目程度
(20～30代前半)

中堅👉
主任級
(主任児童心理司 等)
10～15年目程度
(30代中盤～)

サブリーダー👉
主査級
(主査児童心理司 等)
15～20年目程度
(30代後半～)

グループリーダー👉
主任主査級
(上席児童心理司 等)
20～25年目程度
(40代中盤～)

管理監督者👑
担当課長～
25年目以降
(40代後半～)

主な職名：児童心理司、心理判定員、心理相談専門員 等

主な配置先：児童相談所（福祉総合相談センター含む）、精神保健福祉センター、本庁（保健福祉部等）、知的障がい者更生相談所 等

県職員としての土台づくり。
知識経験をしっかり吸収。

様々な分野を経験。実務
の中核として活躍。

視野を広げながら担当業務
を推進。後輩もフォロー。

幅広い視野で業務を推進。
チームの要として活躍。

チームを引っ張り、県
の政策・施策を立案。

豊富な知識・経験で
組織をマネジメント。

- 【児童心理司】
- ・心理検査や面接技法、心理治療の習熟
- ・家庭支援、地域支援の技術 など
- 【心理判定員】
- ・各種障害判定や審査業務、地域リハビリ
- ・自殺対策、ひきこもり支援、心理教育 など
- 【その他】
- ・基礎的な心理業務を経験後、これまでの職務経験を生かした心理社会的なアプローチを実践

- ・専門研修の講師対応
- ・コンサルテーション
- ・対外的なマネジメント
- ・分離家族の再統合支援、里親里子支援、地域支援・支援者支援の中核的存在

- ・児童、女性、障がい等の各分野の枠にとらわれることなく、対象者の状況を包括的に捉えて必要な支援を実施
- ・就学指導委員会等の外部会議に参画し意見を述べるなど、所内外の中核的役割を担当

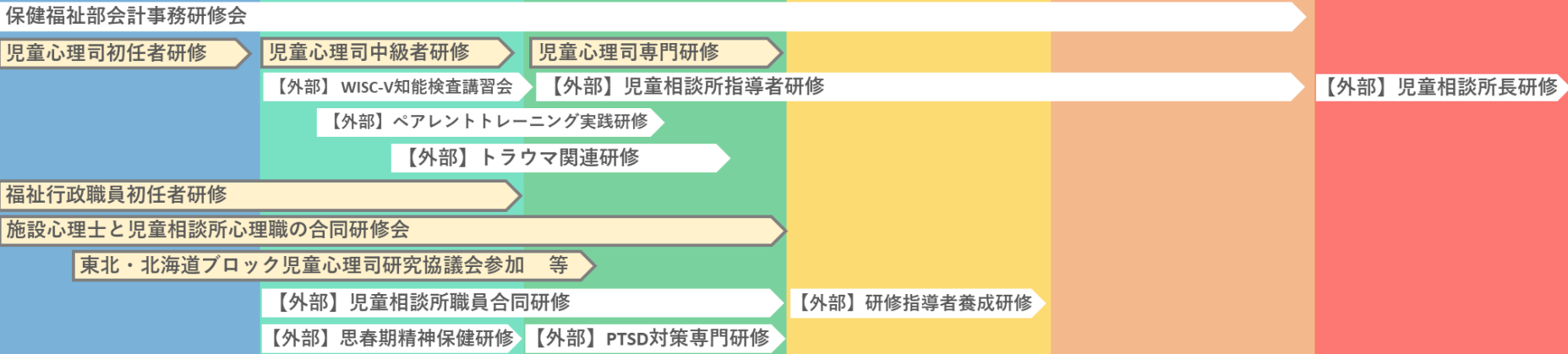
- ・グループ内業務の進捗管理や業務指示、他部署・関係機関との調整能力、交渉力、より高度なスーパーバイザーとしての力を発揮
- ・プレイヤーとマネージャーの両輪をこなす存在

- ・管理監督職として所属職員や事務事業をマネジメントする能力
- ・これまでに培ってきた専門分野の知識・経験等を踏まえた高度な能力（説明・交渉・調整力、判断力、指導力、分析力）の発揮
- ・人材育成能力

👉 若手職員の配置
新採用～3年目までは、心理専門職としての基礎知識等を習得。その後、業務の経験を積み重ね、スペシャリストを養成。本人の適性に応じて社会福祉行政などの幅広い業務も経験可。

必要な知識・能力・役割

職員育成（主な研修）



👉 育成方針：職場を離れて受講する研修（Off-JT）に加え、日常の仕事を通じた上司・先輩からの指導（OJT）や自主的な学習・研鑽（自己啓発）を組み合わせる育成

注1：各職位の目安（○年目）は大卒程度を想定したものです。 注2：研修のうち太い枠線のあるもの（着色されているもの）は必修研修であることを表しています。